NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」

12月5日から第2部が放映

NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」第2部の放映が12月5日から始まった。今回は子規の死や日露戦争の開戦など4話が放映される。松山市では昨年の第1部放映後、まち歩きを中心に様々な観光コースなどを提案。松山市や道後温泉の魅力をアピールし、第2部が始まる今年も誘客活動に注力する考えだ。

松山市内にある秋山兄弟生誕地

子規の死や日露戦争描く

松山市出身の軍人、秋山好古・真之兄弟や俳人・正岡子規による青春群像劇、NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」第2部の放映が12月5日に始まった。3年にわたる壮大な物語も転換期。来年のクライマックスへ主人公たちは時代の渦にどう立ち向かうのか。

「坂の上の雲」は司馬遼太郎が描いた長編歴史小説で、明治時代、日露戦争が時代背景。ドラマは11年まで、毎年秋冬に放映される。秋山真之を本木雅弘さん、好古を阿部寛さん、正岡子規を香川照之さん、子規の妹・く」「日露開戦」「広瀬、死す」の4話。新時代のうねりが日本を巻き込む中、子規の死や物語の核となる日露戦争の開戦など明治の世を生きる秋山兄弟の姿を描く。放映はNHK総合が12月26日までの毎週日曜、19時30分―21時。BS2は同22時―23時30分。

松山市は放映を機に07年、「坂の上の雲」を軸にしたまちづくり計画を策定。市全体を博物館と見立てた「フィールドミュージアム構想」の中核施設「坂の上の雲ミュージアム」の開業やまち歩きコースの設定など取り組みを進めてきた。

昨年から今年は放映効果で市への来訪者数が大幅増。秋山兄弟生誕地や秋山兄弟生誕地や

松山市

専門の乗務員が案内 観光語り部タクシー

松山市は地元タクシー会社と連携して2010年11月1日から、パック旅行プラン「松山観光語り部タクシー」を登場させている。松山観光に精通した専門の乗務員が、「坂の上の雲」のまち・松山を案内。タクシーに乗り込めば、物語を生んだ風土をあますことなく体感できる。

「語り部タクシー」の魅力は3つあげられる。1つは運行する伊予鉄タクシーの乗務員。松山市の観光おもてなし研修を修了した乗務員が運転を担当し、「語り部」として観光ガイドをしてくれるというものだ。車内で、ゆかりの地で「坂の上の雲」や松山の風土などを伝えてくれるため、コース中は「坂の上の雲」の世界にどっぷりと浸かれるだろう。

もちろんコース設定も魅力だ。コースは3種。「お手軽」2時間コースは、松山城ロープウェイから松山城、坂の上の雲スペシャルドラマ館をめぐるライトな設定。「充実」3時間コースは、梅津寺松山兄弟の銅像を見学し、三津の渡しに乗船した後、「お手軽」コースと同様のルートをたどる。最長の「悠々」4時間コースは、松山城ロープウェイ、松山城を訪れ、坂の上の雲ミュージアムで物語の世界観に触れる。子規記念博物館と石手寺の散策も楽しむ、物語の奥底まで触れるコースになっている。初めて松山を訪れた人も迷わないコース設定を心掛けたという。

乗降は、松山市街や道後温泉の宿泊施設、松山空港、JR松山駅、伊予鉄道松山市駅で対応する。

もう1つの魅力は、立ち寄り先の入館・入場料金や駐車料金などが含まれた完全パックプランということ。簡潔な料金設定で、観光客や旅行会社も安心して利用・販売できる。

価格は、2―4人乗りの一般タクシーが2時間1万400円―1万2800円、3時間1万3900円―1万6300円、4時間1万7600円―2万200円。5―8人乗りのジャンボタクシーは2時間1万8千円―2万1600円、3時間2万2千円―2万5600円、4時間2万6500円―3万400円。延長代金は別途必要。一般タクシーは4台、ジャンボタクシーは1台用意している。販売手数料は15%。

予約申し込みは、一般手数料は利用3日間前、ジャンボタクシーは同14日前まで。

問い合わせは、観光販売システムズ☎052―589―0200。

松山市の観光おもてなし研修を修了した乗務員が「語り部」に

コースは3種類。どのコースでも訪れる松山城

松山市に野志新市長 観光振興施策継続へ

松山市長選が11月28日に行われ、野志克仁新市長が誕生した。愛媛県知事に転身した中村時広前市長の後を受け、「坂の上の雲」のまちづくりなど観光振興施策を引き続き展開する。

野志新市長は松山市出身の43歳。市長公約として「一人でも多くの人を笑顔に　全国に誇れる、わがまち松山」をスローガンに7政策を掲げた。

そのうちの「地域の宝を磨き」で観光振興に言及。①坂の上の雲のまち効果を継承・発展し平成のベストセラーを目指す②三津の朝市、松山総合公園の整備など坂の上の雲サブセンターゾーンの活性化を検討③道後温泉、松山城のブランド力を高め、国際文化観光都市として観光客600万人を目指す④北条・島しょ部の活性化に努め、風早レトロタウン、愛ランド里島構想の検討―の4項目を重点政策として取り組んでいく。

ドラマ「坂の上の雲」が第2部を迎える中、観光への手腕が注目される。

"明治村"で『坂の上の雲』のまち松山フェア

愛知県犬山市の博物館「明治村」で2011年11月13日から、「『坂の上の雲』のまち松山フェア」が開かれている。遠く愛知の地にも物語と松山が登場。明治の雰囲気が広がる空間で、物語の世界観が味わえる。2011年2月27日まで。

同村は明治時代の建築物や文化財を多く有する、明治の文化を伝える施設。ドラマ「坂の上の雲」の撮影もこの地で行われ、今回の企画につながった。松山市や松山市立子規記念博物館なども協力している。

フェアのメーンは特別展「秋山真之と正岡子規展」で、2人のパネル写真や資料のほか、正岡子規の直筆の草稿など約40点を展示。場所はドラマにも東京大学予備門として登場した同村内の「三重県庁舎」で、主人公2人が生きた時代の雰囲気が漂う中、その人物像と青春の志に迫る。鯛めしなど松山の味が楽しめる「松山グルメフェア」も併催。

「三重県庁舎」ではフェア期間中、「スペシャルドラマ明治村ロケ展」も同時開催。同村内で行われた撮影の様子を写真で伝えるほか、ドラマのストーリーなどを紹介している。

開幕初日に開かれた開幕式典には、松山市から山口最文副市長、犬山市から田中志典市長が出席。フェアの開催を祝い、交流を深めた。

フェアを前に明治村で行われたテープカット、秋山真之と正岡子規展、明治村ロケ展（上から）